遠友だより

発　行
さっぽろえんゆうじゅく
札幌遠友塾
じしゅやかんちゅうがく
自主夜間中学



祝　高橋トコさん　卒業　第470号

約20年余りにわたって、「じっくりクラス」で学び続けておりました「高橋トコさん」が卒業されました。以前から体調を考え、施設に入居しておりました。そして通塾の難しさを考え、卒業となりました。おめでとうございます。

今年の7月23日、代表の黒澤晴一さんとじっくりクラスチーフの伊藤牧子さんお二人が施設を訪問し、卒業証書をお渡ししました。施設のスタッフの方々の見守る中で、笑顔で受け取ってくれました。同窓生となりました。

また、高橋さんより札幌遠友塾にご支援のご寄付を頂きました。感謝いたします。

北海道大学創基150周年記念事業「新渡戸の夢」上映会・ティーチイン
～7月26日　北海道大学学術交流会館にて、194人来場～





札幌遠友塾が約30分余り紹介されたドキュメンタリー映画「新渡戸の夢」が北海道大学150周年記念事業の一環として上映されました。札幌遠友塾元代表の工藤慶一さんが上映後のティーチインに参加されました。また映画に出演された受講生さんとスタッフも壇上で紹介されました。

<u>「新渡戸の夢」ホームページの上映報告の掲載文の一部を紹介いたします。</u>

上映後には、「すべての人に学ぶ権利がある社会と大学の役割」をテーマに、工藤慶一氏（北海道に夜間中学をつくる会共同代表）、藤田正一氏（北海道大学名誉教授・平成遠友夜学校創設者）、川本思心氏（北海道大学教育イノベーション機構リカレント教育ユニット長）による鼎談が行われました。

司会を務めた種村剛氏（北海道大学教育イノベーション機構リカレント教育ユニット特任教授）は、映画のメッセージを単に振り返るのではなく、「学問より実行」「よく生きる」「共に生きる」といった新渡戸稲造の精神を軸に議論を進め、「学びとは何か」「大学は何を果たすべきか」という非常に難しいテーマへと対話を深めていきました。

工藤氏は、自主夜間中学での実践を通して、「学ぶことが生きる証であり喜びになる」ことを語るとともに、「すべての人が学ぶことのできる社会」の実現には、まず戦争を起こさないことが大前提であると力強く訴えました。戦争は人々から学ぶ機会を奪い、その影響は何十年にもわたって人生に残ります。札幌遠友塾で学ぶ人々の背景をたどると、多くの場合、その根底には戦争や貧困、病気などによって教育を受けられなかった歴史があるという言葉は、参加者の胸に深く響きました。

＝　賛助会費等のご寄付、本当にありがとうございます！　＝



この6月から9月にかけて、払込み票に書かれておりましたメッセージをご紹介します。

○「今年も応援します。　＜Sさん：北広島市＞」

○「賛助会費、お送りいたします。どうぞよろしく。　＜Oさん：幕別町＞」

○「わずかですが賛助会費を送ります。毎週水曜日夜の教室に賑やかな声や楽しい笑顔があふれていることと思います。関係者の皆さんのご努力に敬意を表します。余談ですが、青森にも自主夜中があり、来春には公立夜中が誕生します。　＜Sさん：中央区＞」

２０２６年度北海道夜間中学交流会　１１５名の参加で終了！



星友館中学校長
山田哲也さんご挨拶

2026年9月12日（土）、札幌市教育文化会館にて115名の参加のもと「北海道夜間中学交流会」が開催されました。公立の「札幌市立星友館中学校」、自主夜間中学の「函館遠友塾」、「釧路くるかい」、「札幌遠友塾自主夜間中学」をメインに、各地区の活動報告やまなびの体験発表が行われました。

函館、釧路、旭川、北見からも足を運んでくださった方々もおります。また、夜間中学に関係する方々（夜間中学卒業生、同窓生、北海道教育委員会、札幌市教育委員会、小樽市教育委員会、各界の議員等々）にもご参加頂きました。そしてオンライン参加の方も増えました。

札幌遠友塾からは、受講生さんを代表して長野京子さん、地区発表を事務局長の中島圭子さん、スタッフを代表して塚本宏美さんが発表してくれました。

「かでる2．7」にて札幌遠友塾PR展示

～ 9月2日（水）から9月29日（火）まで～



北海道生涯学習協会のご協力により、「北海道立道民活動センターかでる2．7（9階：学びの広場）」にて、札幌遠友塾と札幌市立星友館中学校のＰＲ展示が実施されました。9月2日から約1ヶ月間でした。

各種写真、授業資料、卒業文集、広報紙、各種表彰状等が展示され、見ていただきました。







